

負荷心筋血流シンチグラフィ

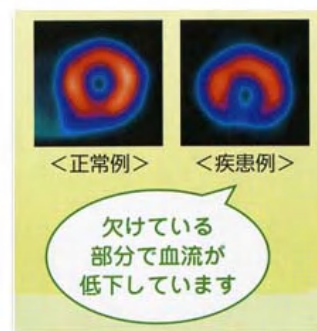
○ 核医学検査 (RI 検査) とは？

核医学検査とは、ガンマ線という放射線を放出する検査薬 (放射性医薬品) を注射し、臓器や病変部に取り込まれた検査薬から放出される微量のガンマ線をカメラで撮影し、体内の情報を得る検査です。投与される検査薬から放出される放射線は極めて微量で、副作用も心配ありません。検査薬は、速やかに自然な排泄作用によって、体から除去されます。

スペクト

○ 負荷心筋血流シンチグラフィ (負荷心筋 SPECT 検査) とは？

負荷心筋血流シンチグラフィでは、心臓の状態や動きを調べ、狭心症や心筋梗塞、心筋症などの病気の有無やその程度を診断します。また、心臓の心筋に栄養を運ぶ血流の流れ (状態) を見るのに有用な検査です。



○ 検査前の注意点は？

- ①朝の食事は必ず取って下さい。
- ②カフェインを含む飲み物 (コーヒー、紅茶、日本茶等) は検査12時間前から摂取しないで下さい。
(原則、水のみ可)

○ 検査の方法と流れ (9時開始の場合)

1. 1回目の放射性医薬品を静脈注射します。(9:00)
2. 注射後30分より1回目のSPECT撮像をします。(9:30)
3. 1回目の注射より約2時間後に
負荷薬剤と2回目の放射性医薬品を静脈注射します。(11:00)
4. 2回目の注射後30分より2回目のSPECT撮像をします。
(11:30)



※ 負荷薬剤を注射すると、動悸、胸痛、めまい、頭痛などの症状が出る場合があります。そのような症状がある場合は、すぐに医師、看護師にお知らせ下さい。

※ 検査時間は注射から検査終了まで約3時間です。

妊娠中、妊娠の可能性のある女性、授乳中や乳幼児がいる方はあらかじめ医師にお知らせ下さい。

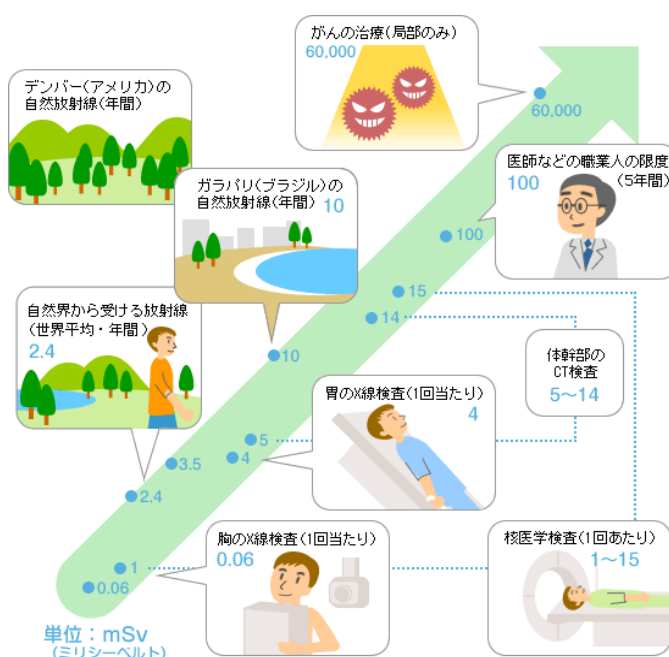
【負荷心筋シンチグラフィ Q&A】

Q.RI 検査薬の副作用はないの？

A. どんなお薬にも副作用はつきものですが、負荷心筋血流シンチグラフィに使われる検査薬の量は約3ccとわずかな量であり、RI薬品製造会社の報告では5196検査を行って、副作用は1062例(20.4%)に認められ、主な副作用は口内苦味感や金属臭1060件(20.4%)など軽微なものがほとんどです。万が一重大な副作用が起こってしまった場合、迅速かつ最善の処置を行いますので安心して検査を受けてください。

Q.被ばくはどれだけするの？

A 核医学検査では検査の種類によって1~15ミリシーベルトの被ばくが生じます。負荷心筋シンチグラフィでは約3ミリシーベルト程度の被ばくとなります。一方、病院で受ける検査による被ばく以外にも、右の図のように普段生活しているだけでも被ばくが生じています。1年間普通に生活しても、自然界から受ける被ばくが約2.4ミリシーベルトとなっています。この被ばく線量で、身体に影響が出る事はありませんので安心して検査を受けられて下さい。



参考資料：日本メジフィジックス株式会社ホームページ
核医学検査の安全性

<https://www.nmp.co.jp/member/kakuigaku/safe.html>

Q.なぜ12時間前からカフェイン摂取をしてはいけないの？

負荷心筋血流シンチグラフィは、負荷検査を行う時に「アデノシン」という薬剤を使用します。この薬剤は心臓の血管に流れる血液の量を増加させる作用があり、体内でアデノシンとカフェインが類似した作用を示します。事前にカフェインを摂取してしまうとアデノシンの薬剤としての効果が薄れてしまい、アデノシンを使用しても心臓の血管に流れる血液の量が増加しない事があります。その場合、十分な負荷検査が行えず、正しく検査が行えない場合があります。そのため、カフェインの摂取は12時間前から控えて頂くよう、お願いをしています。